

# 地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成16年度より、すべての市立学校で学校評議員制度を導入し、校長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施してきました。現在、幼稚園においては学校評議員を、市立小・中・高等学校においてはコミュニティ・スクールとして学校運営協議会をそれぞれ設置し、地域とともに学校運営について考え歩む取組を進めています。

学校評価に関しては、平成19年6月の学校教育法、同年10月の学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が設けられています。このことを受けて、各学校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題についての改善を図っています。

ここに、令和4年度の各学校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校園では、この報告書を参考にするとともに、学校園・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるよう努めてまいります。

令和5年9月  
奈良市教育委員会

## 内容

### 1 学校評議員制度の活用（幼稚園のみ）

【学校評議員 役職の内訳】	2
【園長が学校評議員に求めた意見例】 〔意見を求めた園数の割合〕	2
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】	3
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に生かされた例】	3

### 2 学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】	4
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】	4
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】	4
【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】	5
【学校関係者評価の実施について】	6

### 3 学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】	7
【学校評価を進める上での課題】	8
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】	9
【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題の具体的解決策の例】	10

### 4 学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】	11
----------------------------------	----

## 1 学校評議員制度の活用（幼稚園のみ）

### 【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	人数	備考
P T A 関係	17人	それぞれの項目は元経験者も含む。
民生関係	10人	主任児童委員、児童委員
自治会関係	6人	
各種協議会	3人	
少年指導協議会	1人	人権教育協議会、安全推進協議会など
地域活動関係	2人	
社会福祉協議会関係	4人	
合計	43人	

※小・中・高等学校では、学校評議員に代わって学校運営協議会を設置しています。

### 【園長が学校評議員に求めた意見例】【意見を求めた園数の割合】

「教育課程・教育内容に関すること」

〔全体 100%〕

- ◆園児数の減少に対応した教育内容の見直しについて
- ◆教育内容や行事の在り方について
- ◆園の研究主題について

「園に対する評価に関すること」

〔全体 92%〕

- ◆園経営・園運営の評価について
- ◆園アンケート結果の報告について

「地域の連携・協力に関すること」

〔全体 85%〕

- ◆地域の方とともに行う活動について
- ◆行事等への関わりについて
- ◆地域や学校との連携の仕方について

「園の目標としていることに関すること」

〔全体 92%〕

- ◆めざす子ども像・教育ビジョンについて
- ◆園目標と地域で決める学校予算について
- ◆本年度の園ビジョンへの意見について

「幼児の安全に関すること」

〔全体 85%〕

- ◆感染症対策について
- ◆就学に向けての登降園について
- ◆防災・防犯対策や安全面について

以下、「生徒指導に関すること」〔全体：54%〕、「学校の施設・設備に関すること」〔全体：54%〕と続いています。

## 【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができる。	57%	74%	73%	65%	59%	85%	93%	92%
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能しているとはいえない。あるいは共有できていない。	36%	25%	27%	35%	41%	15%	7%	8%

## 【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】

- ◆伝統的に行っている『ならまちたんけん』を3回行い、地域や地域の方との関わりを深めることができた。
- ◆園での取組を未就園児クラスの保護者にも紙面の配付でもっと伝えていけばよいのでは、とのご意見から、写真を活用した園長だよりを、未就園児や小学校にも配付した。
- ◆創立70周年記念式典を行うか迷っていたが、評議員の方々のご意見を聞き、感染症対策で式典とせず「お祝いの会」として園児・保護者・職員で行った。
- ◆地域の方にゲストティーチャーとして、いろいろな分野の活動を教えていただき、貴重な経験をすす中で、地域の方にも親しみをもって関わるようにしている。
- ◆就学に向けて、親子での徒歩登園を進めるとよいという意見をいただいた。
- ◆防犯防災、安全面について引き続き行ってほしい、という意見を職員間で再確認した。
- ◆コロナ禍での参観や行事の在り方について、小学校の様子を聞かせていただき参考にした。
- ◆本年度の研究主題に向けて、園の職員が一体になって取り組んでいることを評価され、より園での活動を活発にすることができ学びが多かった。
- ◆昨年度コロナ禍で中止となった行事について、地域の教育力を活かして、ゲストティーチャーとして園に関わっていただき、子どもたちの学びに繋げる機会を増やした。
- ◆地域の企業など、民間との連携で保育を進めるという意見をいただいた。

各学校園で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校園づくりにつなげるかが、さらなる教育改善のポイントとなります。PDCAサイクルのAは学校園を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや家庭、地域の方々と共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りや学校ホームページなどでの公開も、有効な方法となります。

## 2 学校評価の実施

### 【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
学校評価を進める 校内委員会等を組織している。	91%	86%	82%	80%	84%	78%	90%	90%	<b>84%</b>
全教職員参加のもとで 学校評価を進めている。	96%	88%	89%	94%	88%	93%	94%	87%	<b>78%</b>

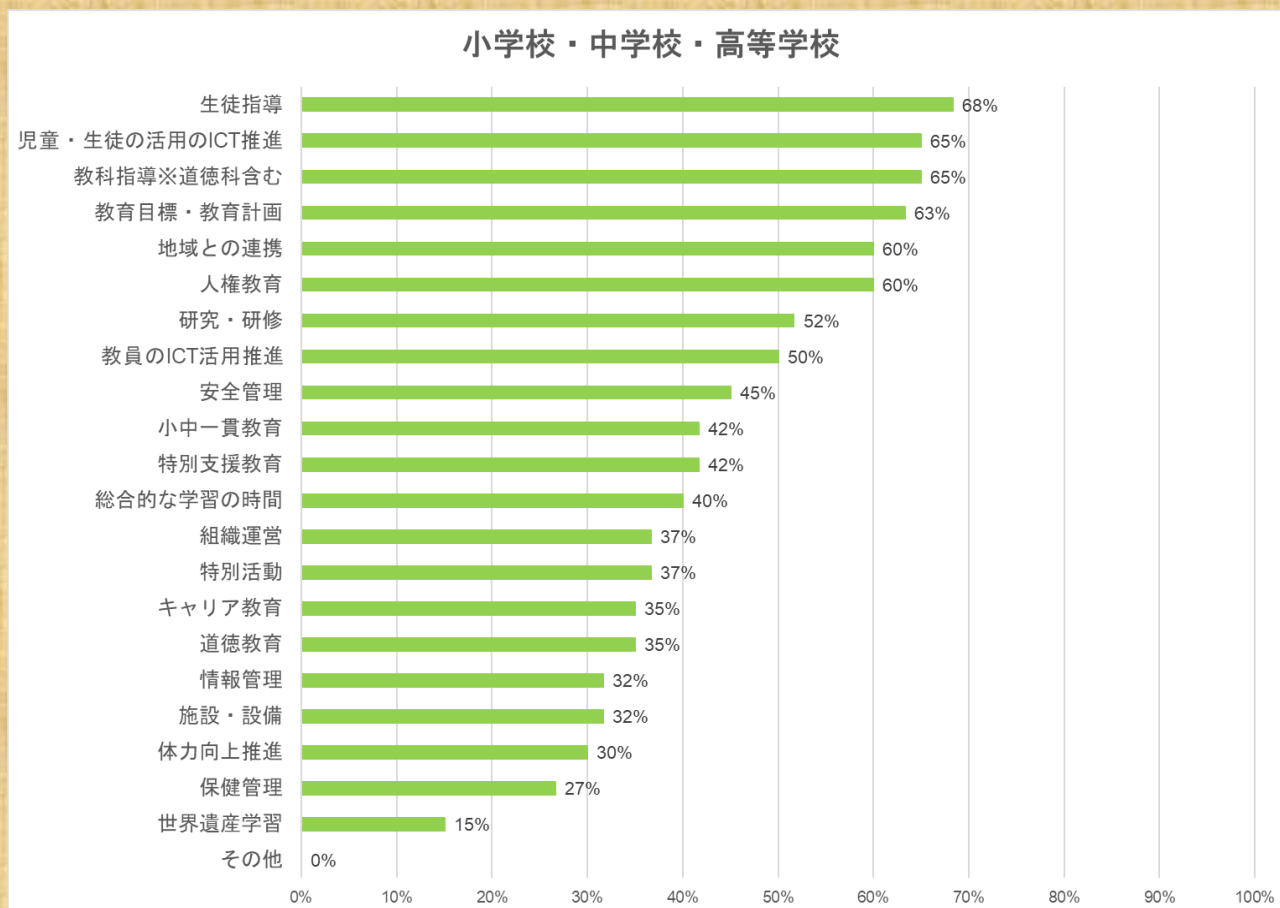
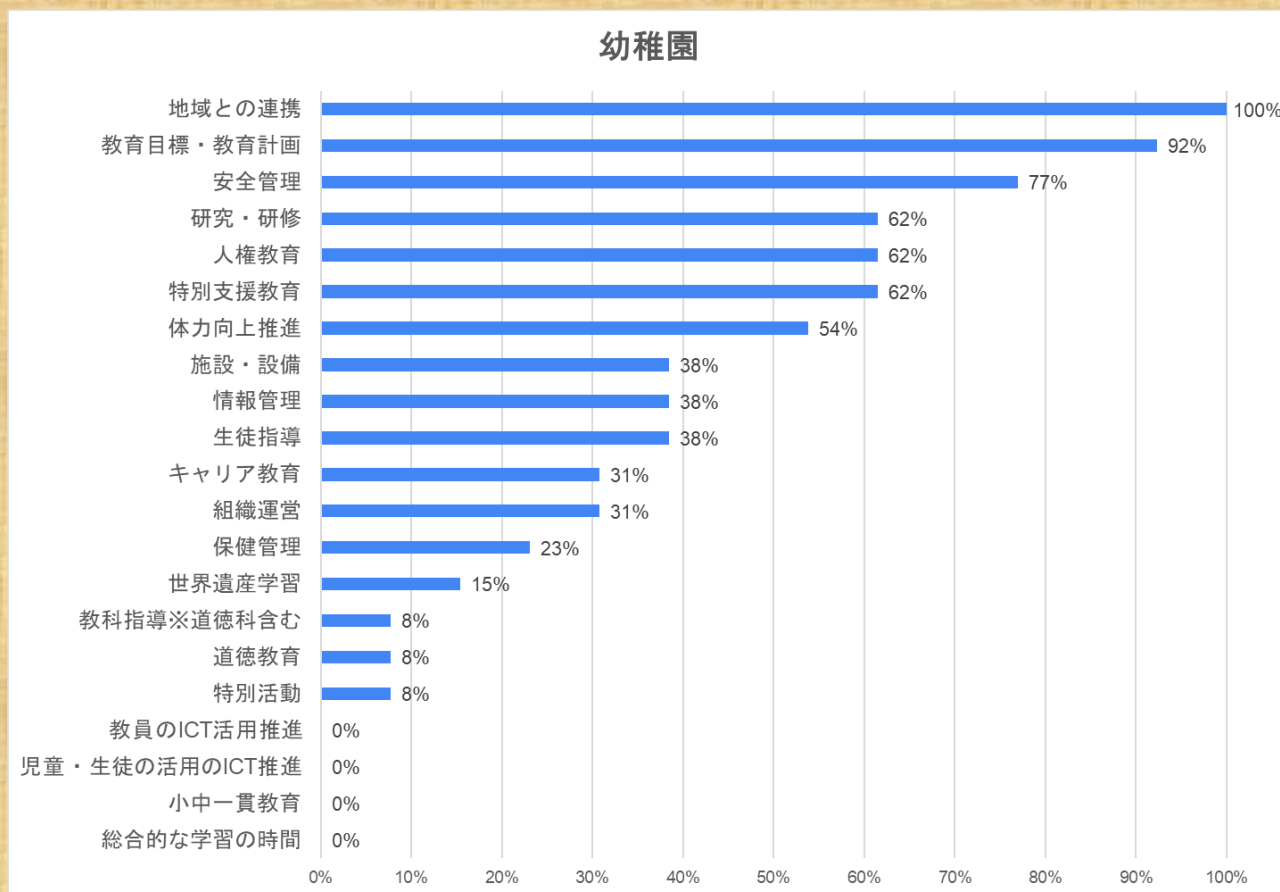
### 【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	69%	79%	82%	<b>78%</b>
学校評価関係教職員で行っている。	15%	8%	18%	<b>12%</b>
主に担当者が行っている。	15%	13%	0%	<b>10%</b>

### 【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】

	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
年度末に1回実施	46%	37%	36%	<b>38%</b>
年度末以外に1回実施	54%	55%	59%	<b>56%</b>
年2回（1学期末、2学期末）	0%	5%	5%	<b>4%</b>
実施していない	0%	0%	0%	<b>0%</b>
その他（行事ごと等）	0%	3%	0%	<b>1%</b>

## 【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】

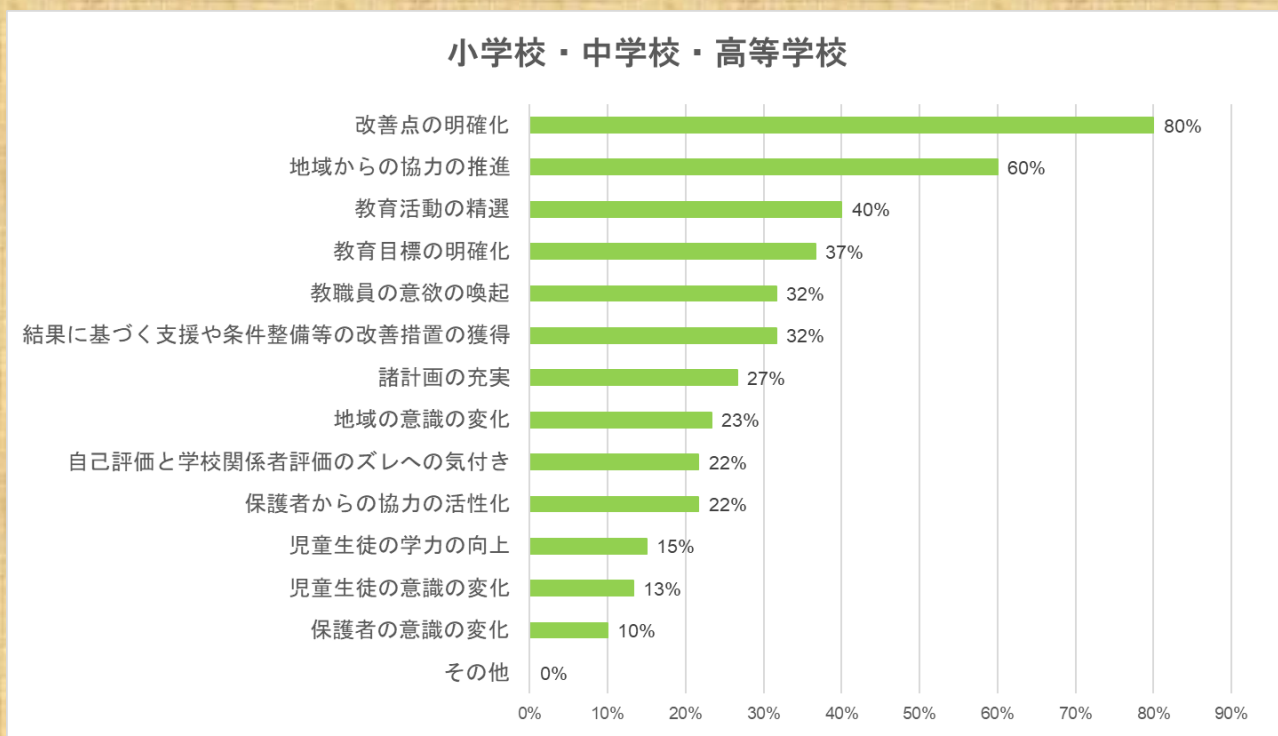
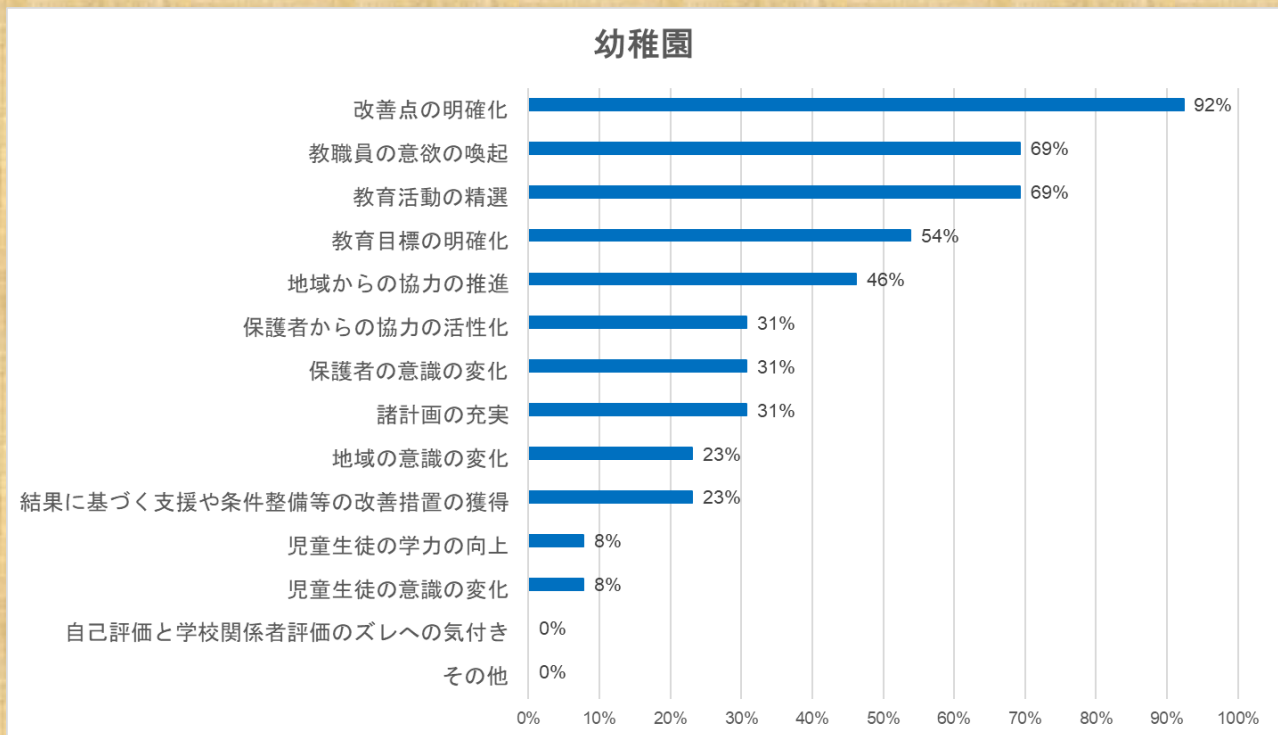


## 【学校関係者評価の実施について】

	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	54%	63%	68%	<b>63%</b>
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	92%	71%	59%	<b>71%</b>
評価はアンケート形式で回答を求めている。	62%	24%	18%	<b>29%</b>
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	31%	42%	27%	<b>36%</b>

### 3 学校評価の成果と課題

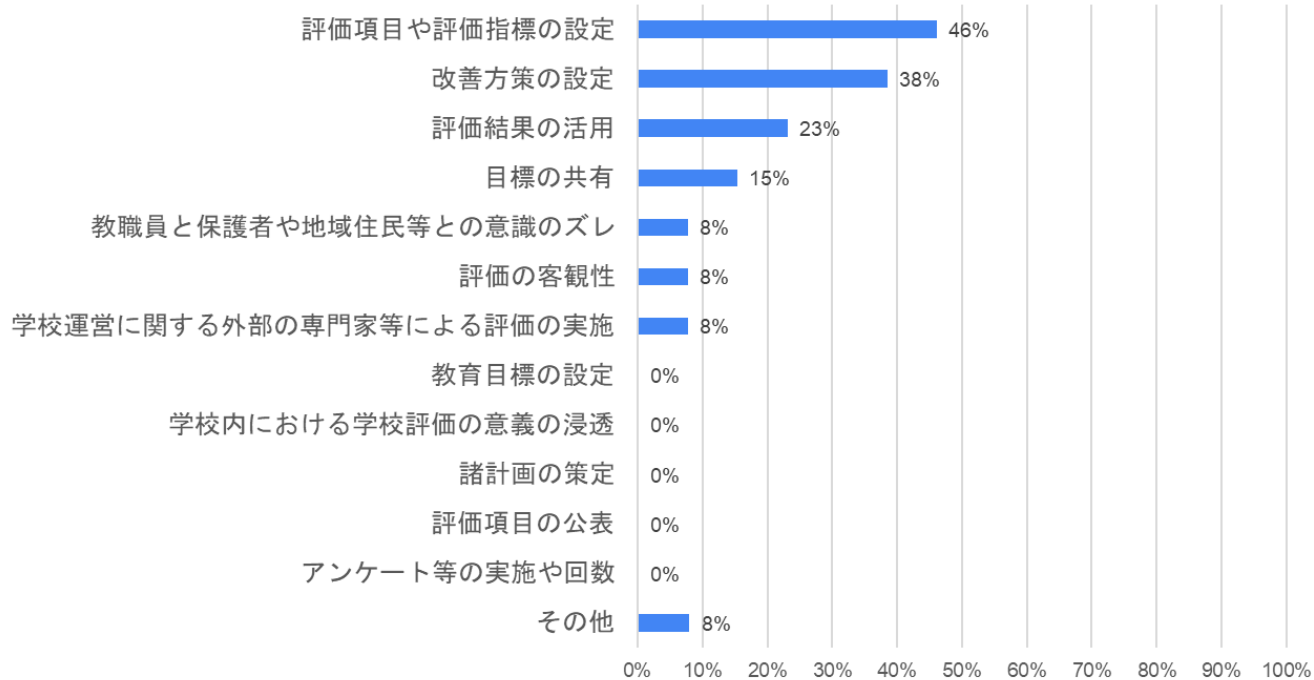
#### 【学校評価を行ったことで得られた成果】



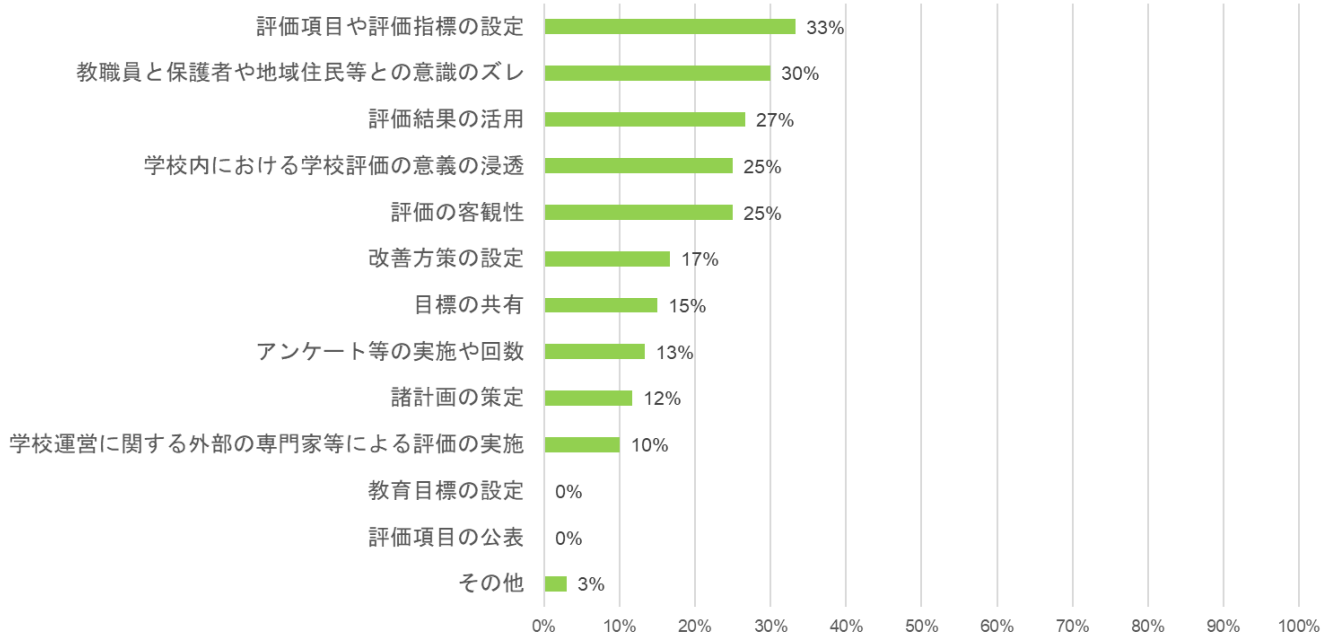


## 【学校評価を進める上での課題】

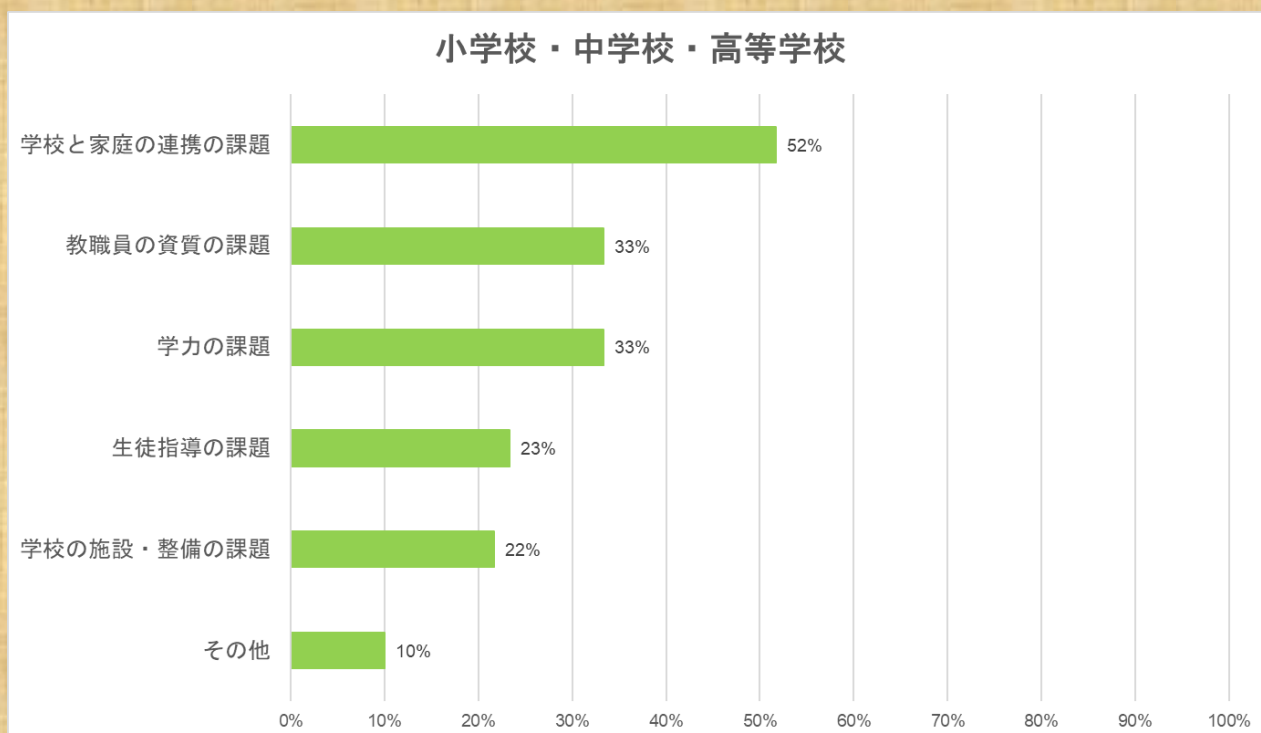
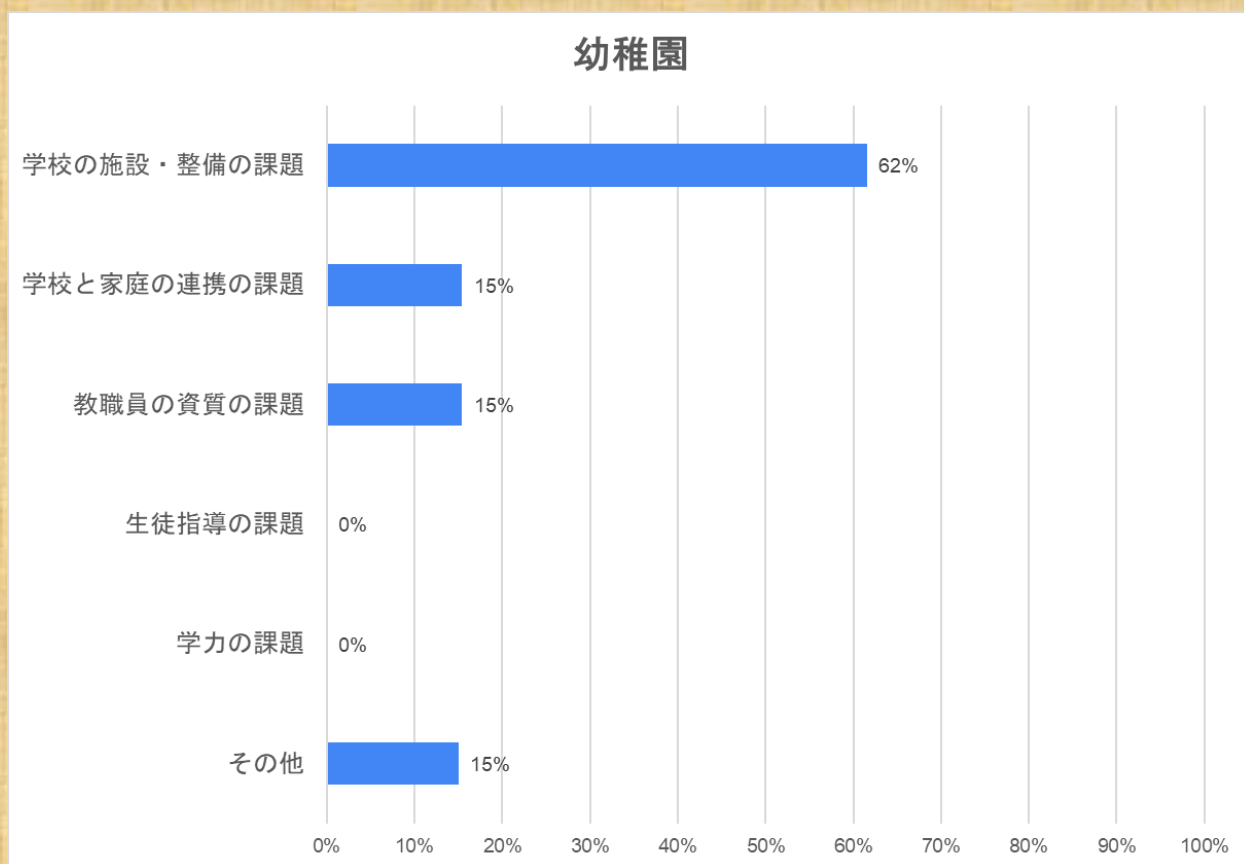
### 幼稚園



### 小学校・中学校・高等学校



## 【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】



## 【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題の具体的解決策の例】

### 〔学校と家庭の連携に関すること〕

- ・ 学習参観等来校する機会を増やし、学校の見える化を進める。
- ・ 学校の取組をできるだけ HP などを通じて外部に周知する。
- ・ 家庭を巻き込んだ学習を意図的に行う。
- ・ 家庭での具体的なタブレットの利用方法などを含めた自主的な学習方法。
- ・ 学校だよりやホームページ、PTA・地域各種会議で学校の取組をていねいに伝える。
- ・ 学校と家庭の連携において迅速に対応する。
- ・ 地域教育協議会との協働。
- ・ 学校運営協議会での発信。
- ・ 家庭学習の充実。
- ・ 家庭訪問を行い、家庭との連絡を密に取る。

### 〔学力に関すること〕

- ・ 研究授業の回数を増やし、校内研修を充実させる。
- ・ 非認知能力（学習に向かう力）を研究課題に設定し、考える力の育成を図る。
- ・ 教職員一人ひとりの弱みを全体で支えながら改善点に気付かせていく取組を行う。
- ・ 教職員の資質向上のため、OJTや校内研修を充実させる。
- ・ 児童が自分から積極的に取り組む力を育てるための効果的な方法について研修を行う。
- ・ ICT 機器の有効活用。
- ・ 校内研修の充実と意見交流をとおして、教職員の資質向上を図る。

### 〔生徒指導に関すること〕

- ・ 学習規律の確立を重視した組織的な対応。
- ・ 小中間での情報共有。
- ・ 教員間の情報交換等、連携を取りながら対応する。
- ・ 生徒指導部会、いじめ対策委員会の充実。
- ・ 生徒指導上の課題を解決するために地域・保護者と連携する。
- ・ 生徒指導をとおして保護者とのつながりを強化する。
- ・ 校内体制の確立。

### 〔施設・整備に関すること〕

- ・ 施設の老朽化に備え、設備の点検や事前の修理、修復に努める。
- ・ 施設設備の修繕を関係機関に要望し、改善に取り組む。
- ・ 教室増など必要に迫られている課題について整理し、早めに要望し対応する。
- ・ 地域のボランティアの方の力を借りて整備を進める。
- ・ 施設の修繕のために予算を適正に活用する。
- ・ 生徒の活動場所での危険箇所の修理、修繕。

## 4 学校評価と学校ビジョン

### 【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- ・ 情報の公開を積極的に行い、信頼される学校を目指す。
- ・ 地域への情報発信方法やホームページの内容の充実、園庭開放等を行う。
- ・ 地域についての学習をより充実させるために、地域の方をゲストティーチャーに迎えた学習の機会を増やしていく。
- ・ 地域の協力者や団体、また保護者からの支援や協力を受け、チーム学校の体制を強化する。
- ・ PTA 活動と地域活動が機能的に連携できるよう協議内容を焦点化する。
- ・ 児童の学習意欲の向上のため、保護者と家庭学習の方法についてともに考える。
- ・ 地域・家庭との連携をより強化し、学校への積極的な参入を促す。
- ・ PTA の在り方について、改めて検討を行う。
- ・ 学校ビジョンを職員や地域にしっかりと浸透させ、具体的に実践していくための方策を検討する。
- ・ 相談体制の周知と関係機関との連携の強化を図る。
- ・ ビジョンと教育活動とのつながりについて丁寧に説明し、明確な視点をもったうえで評価をしていただけるよう HP や学校だよりを効果的に活用しながら積極的に学校での取組について発信する。
- ・ 児童の読書活動の実態から読書活動推進の取組について見直す。
- ・ 主体的・対話的で深い学びにつながる ICT 活用の在り方について考える。
- ・ 指導者から与えるのではなく、学ぶ力（非認知能力）や考える力を育成し、個人を育てることに重点を置いた取組を進める。
- ・ ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの実現により、児童の思考力・判断力・表現力の向上を図るため授業改善に取り組む。
- ・ 働き方改革を実現し、教員が児童の学力向上のための指導方法の工夫に専念できる学校運営を目指す。
- ・ 児童の探究心が高まるような教育活動を展開するため、協働する場面を積極的に取り入れた授業の在り方について研修を行う。
- ・ 小中間での学習状況の共有を図り、実効性のある学習支援（家庭学習の充実）の展開と ICT 機器を有効活用した授業展開により、学力の向上に取り組む。
- ・ 児童の自主性や更なる自尊感情を高める手立てとして、特別活動の充実を図る。
- ・ 今年度の生徒の実態から目指す生徒像へ到達するまでの過程がイメージできるよう改善する。
- ・ 子どもたちがより安心して学校生活を送ることができ、落ち着いて学習することができるような居場所づくりに取り組む。
- ・ 学級集団づくりの研修の機会を増やし、教職員の資質向上を図る。
- ・ 働き方改革や校則・行事の見直しを取り入れ、新しい教育を目指す。